

# 一般国道296号

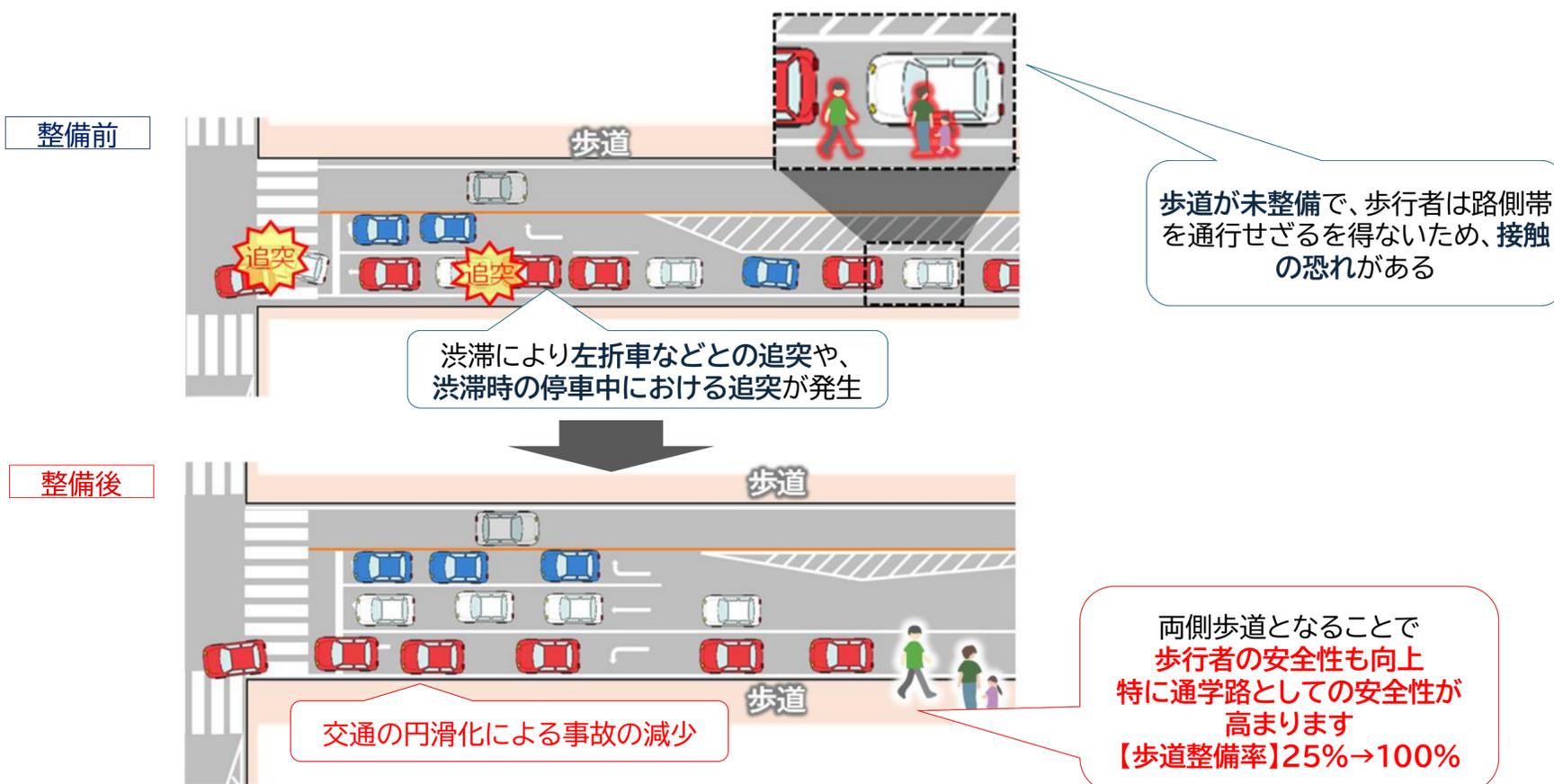
## 事故の減少や安全性向上、住環境改善にも寄与 (経済的・社会的効果)



### 安全性の向上

- 当該区間の整備による交通の円滑化により、渋滞に起因する車両相互事故の減少が期待されています。また、生活道路を抜け道利用した車両が外周道路である国道296号等へ転換(約1,600台/日)することにより、ゾーン30プラス区域内の安全性も向上します。
- 加えて、国道296号も両側に歩道が整備されることで歩行者の安全性も向上します。
- 当該区間の渋滞ボトルネック解消は、外周道路の事故減少効果と生活道路の安全性向上という中野木地区全体の住環境改善に大きく寄与します。

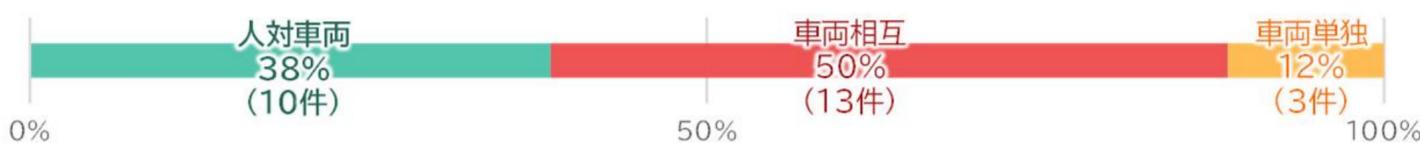
### 交通円滑化による安全性の向上



### 生活道路から幹線道路への転換



【ゾーン30プラス内の事故類型】



出典: 船橋市「交通ビッグデータ見える化協議会第9回会議」  
※ETC2.0プローブデータ(走行履歴:様式1-2)より算出。2022年9~11月の全日タピーク時(17~18時台)

出典: 警察庁 交通事故統計情報  
オープンデータ(R1-R4)

# 一般国道296号

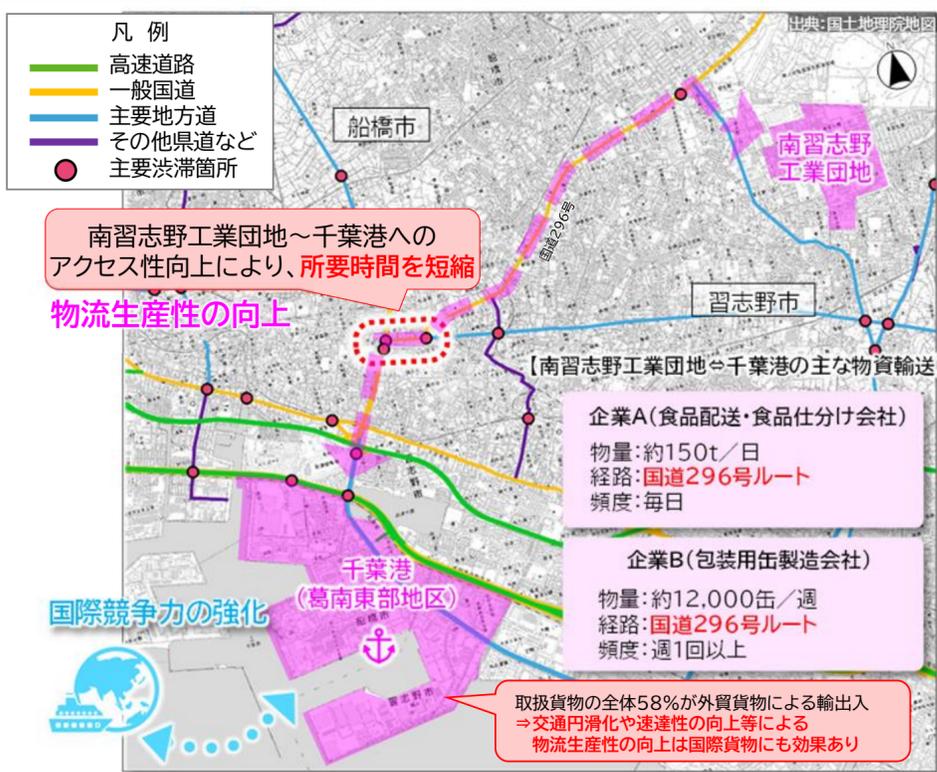
# 千葉港の機能強化に対応した物流効率化の支援 (経済的・社会的効果)



## 物流効率化の支援

- 南習志野工業団地と千葉港(葛南東部地区)を結ぶ大型車のアクセスルートは、合理的な経路選択を行うと主要渋滞箇所を通過することから物流生産性の低下が生じており、物流事業者からも国道296号の渋滞に関する意見なども挙がっています。
- 本事業により交通の円滑化や速達性の向上による物流生産性の向上が期待されます。
- 加えて、当該地域では国際拠点港湾である千葉港の機能強化が2030年台前半に向けて進展しており、交通需要の増大に対応し、サプライチェーンの強化や輸送コスト低減など国際競争力の強化を進める上でも早期整備が不可欠です。

### 南習志野工業団地内への物流ルート



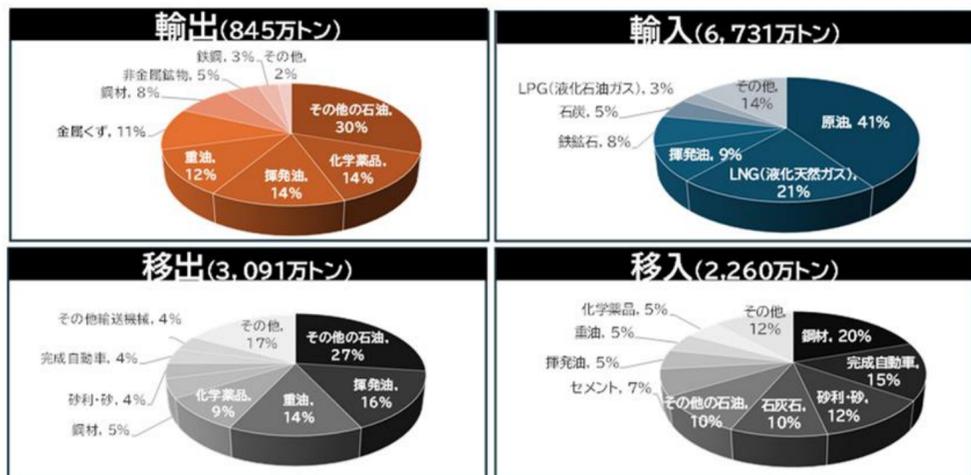
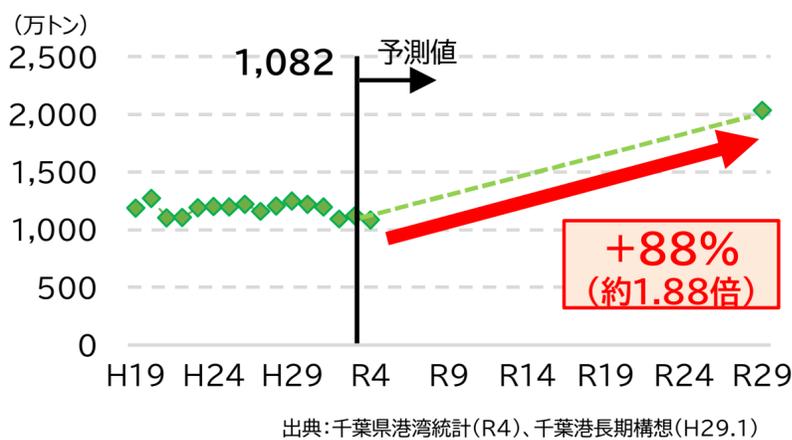
### 千葉港へのアクセス性向上



### 千葉港の取扱貨物量



### 千葉港における貨物取扱量の目標



### 事業者へのヒアリング

大型車両での通行道路が限られ、  
 渋滞を避けられない。

国道296号を通行できないと  
 大きな迂回が必要となる。

出典: 南習志野工業団地事務局および団地内の企業へのヒアリング結果

【想定される効果】  
 > サプライチェーンの信頼性向上・強靱化 > 輸送コスト低減による競争力強化 など  
**陸上輸送の効率化は国際競争力の強化を図る上で不可欠**

物流の効率化は、私たちが普段利用するスーパーへの商品の安定供給や、ネット通販の配送時間の短縮など、日々の生活を支えることにも繋がります

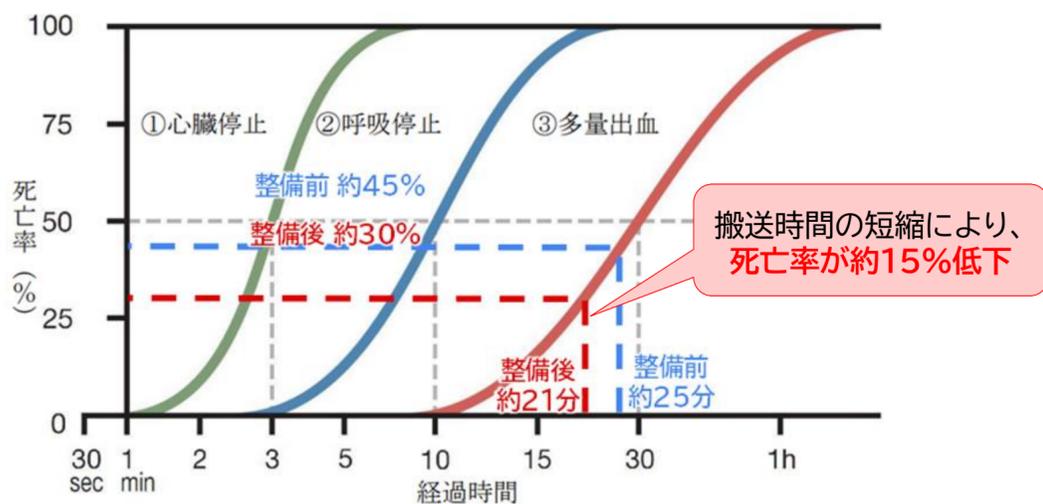


## 救急医療活動の支援(経済的・社会的効果)

### 救急医療活動の支援

- 当該区間の整備により、東葛南部保健医療圏内の救急救命センターの1つである船橋市立医療センターまでの10分アクセス圏が拡大し、救急医療活動の支援が期待されます。
- 広域拠点である津田沼駅・新津田沼駅周辺から、船橋市立医療センターまでの搬送時間が約4分短縮されることで、多量出血による重症患者の死亡率が約15%低下するほか、10分アクセス圏のカバー人口は約1,200人増加します。

#### カーラーの救命曲線による救命率の向上



出典:「カーラーの曲線」一部改変。(M.Cara:1981)

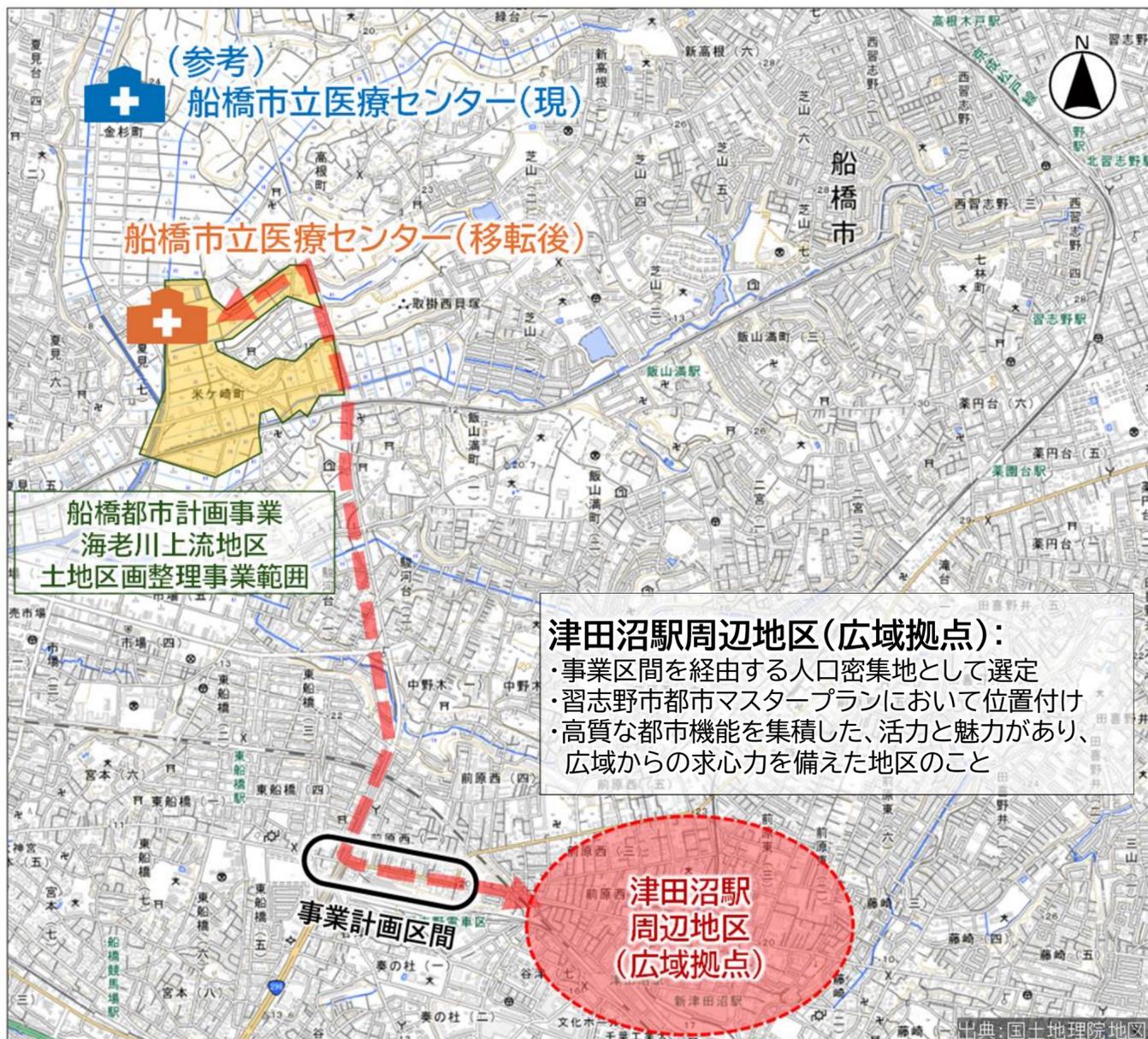
整備前:R3道路交通センサス 混雑時旅行速度  
整備後:通過時間の実測値分が短縮(R4.2調査)

#### 10分アクセス圏のカバー人口の変化



整備前:R3道路交通センサス 混雑時旅行速度  
整備後:通過時間の実測値分が短縮(R4.2調査)

### 救命救急センターへのアクセス



#### 船橋市立医療センター(移転後)

第3次救命救急センター

病床数内訳:  
493床(移転前449床)

建設場所:千葉県船橋市高根町  
(土地区画整理事業地区内)



# 上位政策と全体計画との関連

## ～千葉県総合計画-千葉の未来をともに創る～



### 千葉県総合計画 -千葉の未来をともに創る-

- 東京方面からの玄関口に当たる県北西部では、人口の集中等に伴って、県内の主要渋滞箇所の約6割が集中するなど交通渋滞が深刻化しており、域内の移動だけでなく、首都圏全体の人・モノ・財の流れのボトルネックになっています。このため、人口比率の上昇に応じて着実に道路整備を行う必要があります。
- 県では、この交通渋滞による損失時間を早期に解消するため、沿線市や国とも連携しながら、現道拡幅やバイパス整備、交差点改良等も含め、国県道全体の道路整備を加速していきます。

### 千葉県全体で、北西部の渋滞解消を『最優先事項』として進めています

#### 施策項目Ⅱ-3-① 半島性を克服する交通ネットワークの強化

(中略)

##### 【取組の基本方向】

公共交通については、成田空港と都心間のアクセスの更なる改善や県内と都心とのアクセス利便性の向上、高速バスネットワーク拠点の充実など、交通ネットワークの強化に向け、協議・検討を進めていきます。

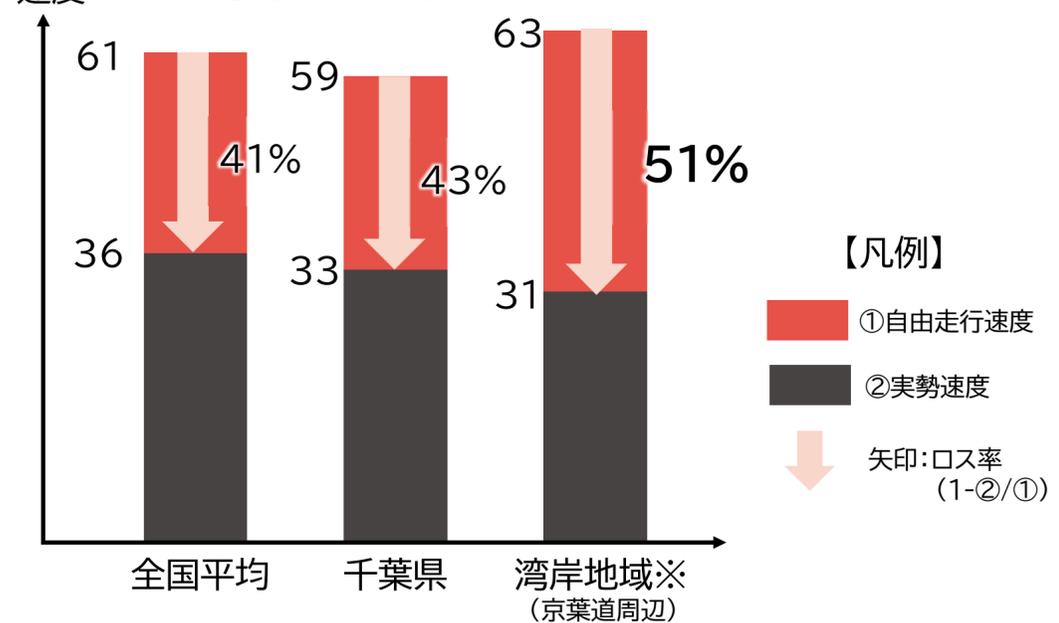
また、路線バスの再編やモード転換による利便性・生産性・持続可能性の高い地域公共交通の再構築を図るとともに、駅のバリアフリー化の推進など、利便性や安全性の向上を図ります。

道路については、アクアラインと一体となって、首都圏の広域的な幹線道路ネットワークを形成する圏央道や、外環道と成田空港を最短で結び、首都圏の国際競争力を強化する北千葉道路、房総半島先端部へ向かう高規格道路である富津館山道路の全線4車線化などの広域的な幹線道路ネットワークの整備を促進していきます。

特に人口が集中し、渋滞が深刻化している県北西部において人・モノの流れのボトルネックとなっている慢性的な交通渋滞を解消する道路整備を最重要と位置づけ、地域のみならず本県全体のポテンシャルを十分に発揮させる、新湾岸道路や千葉北西連絡道路の計画の具体化や、北千葉道路の全線直轄編入を国に働きかけていくとともに、広域的な幹線道路ネットワークへのアクセス道路を含めた国県道全体の円滑化に向けて、現道拡幅や、バイパス整備、交差点改良などの道路整備を加速していきます。

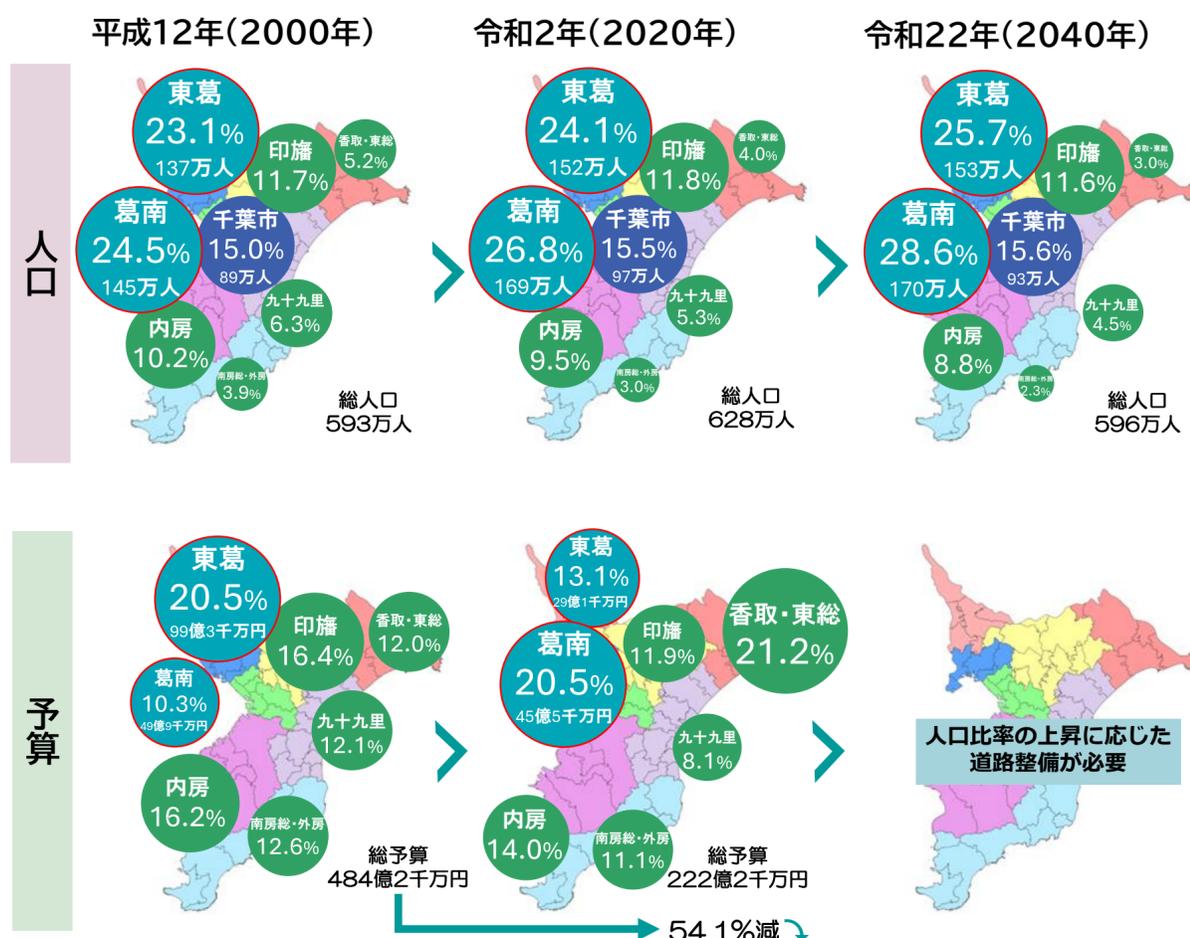
出典：千葉県総合計画 ～千葉の未来をともに創る～(R7.10) 千葉県

#### 速度 時間ロスの発生



対象：高速道路、一般道路(都道府県道以上)  
 ※湾岸地域：千葉市、市川市、船橋市、習志野市

### 県内人口と道路整備予算の推移



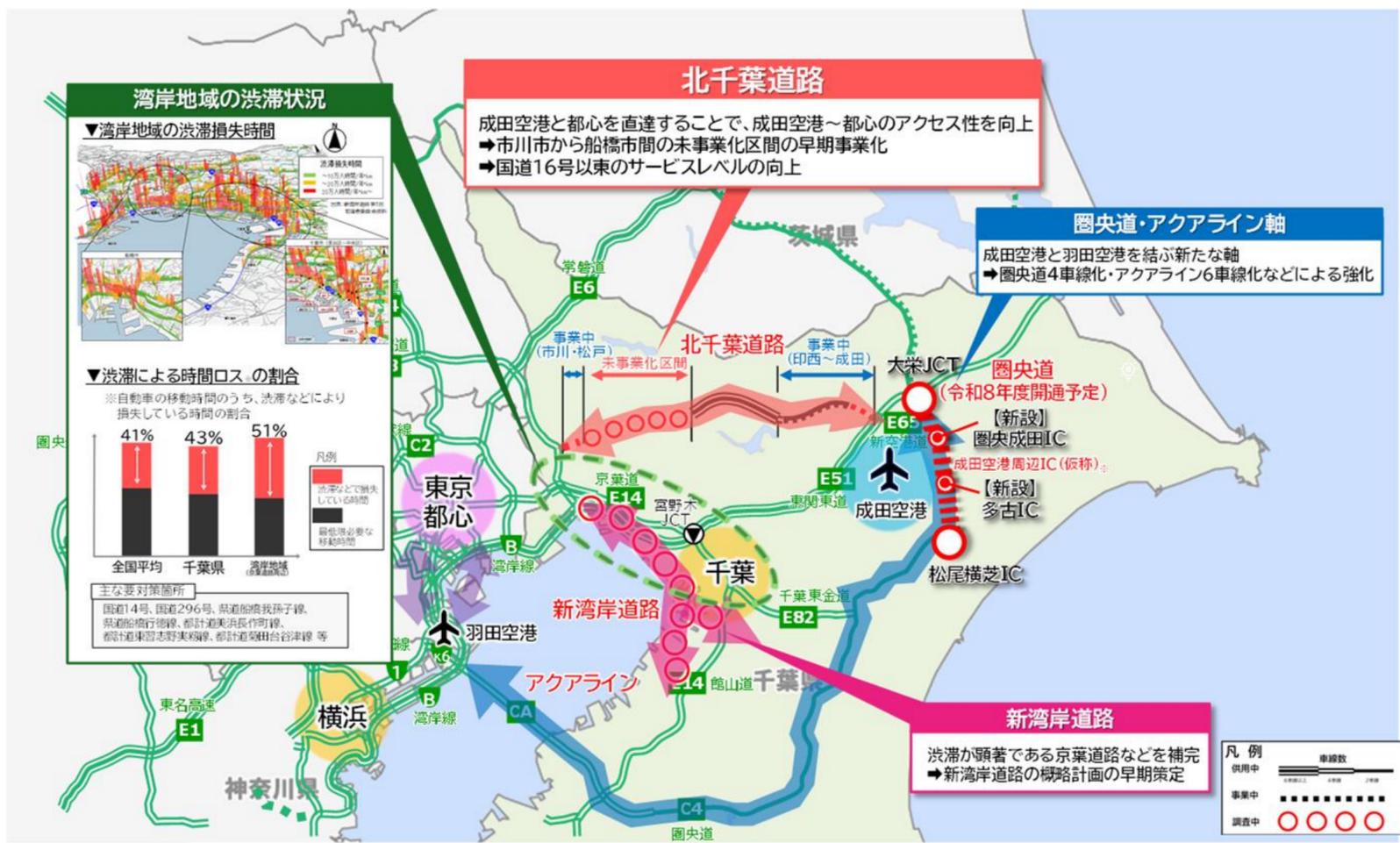
出典：千葉県総合計画 ～千葉の未来をともに創る～(R7.10) 千葉県

# 新しい成田空港を支える 高規格道路ネットワーク構築の基本方針



## 成田空港「第2の開港」を支える広域道路ネットワークの早期実現

- 「新しい成田空港を支える高規格道路ネットワーク構築の基本方針」(R7.11公表)を踏まえ、北千葉道路や新湾岸道路を最優先で整備していく予定です。
  - 圏央道等のネットワーク形成が進む中、高規格道路の整備に合わせ、IC周辺等の渋滞ボトルネック対策を講じていくことで、シームレスネットワークを実現します。
  - 成田空港と羽田空港を結ぶ新たな軸となる圏央道・アクアライン軸の機能強化に向け、機能強化に向けた検討を進めています。
- ➡ 『**成田空港アクセスの抜本的な高速化・多重化**』 ・ 『**千葉県北西部の渋滞解消**』 を強力に推進



- 「新しい成田空港を支える高規格道路ネットワーク構築の基本方針」(R7.11公表)では、千葉港等の物流拠点へのアクセス強化や、高速道路の整備に合わせて、一般道路の渋滞対策を加速化することでシームレスなサービスレベルを確保し、渋滞ボトルネックの解消を図ることが示されています。

新しい成田空港を支える高規格道路ネットワーク構築の基本方針  
 ～千葉県版WISENET2050の実現に向けて～

新しい成田空港を支える高規格道路ネットワーク構築のあり方について、「千葉県道路協議会」及び令和6年9月に設立した「首都圏空港道路ネットワーク検討分科会」において、意見交換を行いながら検討を進めてきたところである。

これまでの検討結果を踏まえ、千葉県道路協議会において、下記のとおり基本方針を策定する。

記

- 日本のゲートウェイである成田空港を核とする機能強化は、今後の日本全体の競争力を左右する国家プロジェクトであり、アジア主要空港に比肩するグローバルハブ空港として機能させるため、空港施設やアクセスなど基盤インフラの戦略的構築が急務である。
- しかしながら、現状で成田空港にアクセスする高規格道路は、東関東自動車道のみであり、リダンダンシーを欠いている。また、京葉道路を中心に、千葉県湾岸地域では慢性的な渋滞が生じており、成田空港アクセスとしての機能を果たすことができず、地域の社会経済活動に損失を与え、生産性を著しく損ねている。
- 京葉道路については、交通容量不足などを要因とする渋滞箇所を特定し、渋滞対策に取り組むための料金見直しを活用し、一定の成果をあげているものの依然として渋滞が残存している状況にある。
- また、令和8年度には圏央道(大栄～松尾横芝)の全線開通が見込まれており、成田空港へ南側からアクセスすることが可能となるため、これを活かして、都心との複数のアクセスルートを確認し、賢く使うことが必要である。
- 高規格道路の整備が地域にもたらす大きなインパクトは外環道千葉区間の開通でも実証され、飛躍的な速達性・定時性の改善とともに、生活道路の交通安全の向上など、現在もその効果を発揮し続けている。
- 高規格道路ネットワークを真に利用しやすいものとするためには、引き続き、「ネットワークの充実・強化」と「公平で利用しやすい料金体系」を実現する「ハード」・「ソフト」両面の取組が必要である。
- こうした認識を共有する中、「シームレスネットワークの実現」、「多機能空間への進化」といったWISENET2050に示される考え方を十分に踏まえ、国・

県をはじめとする関係者は、以下の取組に重点を置き、連携して、新時代の基盤にふさわしい質の高いネットワークの実現を目指すこととする。

<成田と都心・羽田の連結強化につながる新たなネットワーク形成>

- 唯一の成田空港アクセスである東関東自動車道に加え、都心と成田空港を最短で結び外環道と接続する北千葉道路、及び渋滞が顕著な京葉道路を補完し外環道・東関東自動車道と接続する新湾岸道路を車の両輪として、地域と意識を共有しながら、スピード感を持ち、有料道路事業を活用し、最優先で新たなネットワーク形成を図る。
- 新湾岸道路の計画の具体化にあたっては、広く関係する方々の意見を把握しながら、丁寧に合意形成を図る。
- 北千葉道路については、外環道から国道16号の間が自動車専用道路として計画されているが、国道16号以東についても、都心と成田空港を信号なく直結する規格の高い道路としてサービス水準を向上するため、計画の見直しを進める。

<圏央道・アクアライン軸(ゲートウェイ・コリドー)の強化>

- 成田空港から圏央道、アクアラインを経て羽田空港に至るルートは、成田と羽田を結ぶ新たな代替軸となり、ゲートウェイの効果をも首都圏へと広域に波及させるコリドーとなるため、渋滞状況を監視し、圏央道やアクアラインなどの機能強化に向けた検討を行う。

<高規格道路アクセスの改善>

- シームレスなサービスレベルを確保し、高規格道路ネットワークの効果が沿線地域に波及するよう、千葉港等の拠点アクセスの円滑化や高規格道路のIC周辺の県道等における渋滞ボトルネックの解消を図る。

<ネットワークを賢く利用する取組>

- 成田空港の機能強化とあわせて道路アクセス強化にあたり、高速道路の経路間における料金水準の差異等により、相対的に料金水準が低い経路において、交通偏在による渋滞発生が生じることを踏まえ、料金水準の整理・統一を進めることにより、経路にかかわらず円滑なアクセスを確保することが重要である。
- 需要に働きかける TDM など、ネットワークをより有効に活用していくための方策や道路規格に応じた安全で快適な走行に向けて検討を行う。